

「山の日」をPRする東北森林管理局の 取組について

— 技術普及課

今年から8月11日が「山の日」として祝日になりました。国民の祝日に関する法律によると「山の日」制定の意

義として「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する。」と定義されています。

■各森林管理署等で実施した山の日をPRする取組



ふれあいの森植樹祭（三八上北森林管理署）



残雪の裏岩手連峰開山祭（岩手北部森林管理署）



山の日記念「早生樹の森」植樹祭（三陸北部森林管理署）



海岸防災林植樹祭（宮城北部森林管理署）



最上地域森の感謝祭 2016 木工教室（山形森林管理署最上支署）



白神森林講座（津軽白神森林生態系保全センター）

東北森林管理局と各森林管理署等では、「山の日」制定を契機に、国民の皆さんに「山の恩恵」である木材の供給、水源の涵養、国土の保全や地球温暖化防止機能などの森林の持つ多面的機能について御理解いただくとともに、これらの多面的機能の持続的な発揮に取り組んでいる国有林をPRするため、林業体験、植樹祭や森林体験学習の実施、「山の日」制定記念登山などに取り組みました。

今回はこれらの取り組みの中から、各森林管理署等で実施した取り組みの一部を写真で紹介させていただくとともに、当該が実施した取り組みの中から2つの事例について、その概要を紹介いたします。

■「山の日」制定記念・森吉山登山

平成28年8月7日（日）、「山の日」制定を記念して、秋田県北秋田市の花の名峰・森吉山において登山イベントを開催しました。

本イベントは、「山の日」の趣旨である「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」のとおり、老若男女問わず一般の方々に山に親しむ機会を提供

することを目的に、森林ふれあい推進事業として実施したものです。

募集期間中は応募の電話が鳴り止まない日もあり、登山イベントに対する需要の高さをあらためて感じる結果となりました。最終的には、予想を大幅に上回る112名の方からの応募があり、抽選で選ばれた20名の方が森吉山登山に参加されました。

参加者の年代は50代から60代の方がおよそ半数を占め、最年少が10才（小学4年生）、最年長が74才と非常に幅広い年齢層での記念登山となりました。

当日は午前7時に東北森林管理局を出発したあと、午前9時頃には阿仁スキー場に到着しました。その後、阿仁スキー場のゴンドラに乗り暫しの空中散歩を楽しみながら標高1,167mまで上り、山頂からは3班に分かれて標高1,454mの山頂を目指しました。心配された天気は晴天！・・・を通り越して最高気温38℃とこの夏一番とも言える猛暑日で、雨に降られる心配は無かったものの、熱中症が大変心配ななかでの登山となりました。

今年の森吉山は例年よりも降雪量が少なく、気温の高い期間が続いたため、

高山植物の開花が例年より早い状況での実施となりましたが、タチギボウシ（「バギボウシ」）、ハクサンシヤジン、クルマユリ、ハクサンフウロ、ハクサンボウフウなどが美しく咲いていたほか、アオモリトドマツの松ぼっくりやモウセンゴケなども見ることが出来、景色も最高で、参加者の目を楽しませていました。午後零時半頃には森吉山山頂へ参加者全員が到着し、昼食や写真撮影を行ったあと、来たルートを下り、熱中症になることなく全員元気に下山することができました。

参加者を実施したアンケートでは、猛暑だったにもかかわらず「きつかった」という感想はなく、森吉山登山を楽しんで頂けたことが分かり、ほっとしているところです。

また、今回参加いただけなかった方々



森吉山山頂駅での開会式

からも同様の登山イベントをまた開催してほしいという声が多く寄せられており、来年度以降のイベント企画の参考にさせていただきたいと考えています。



タチギボウシの説明を聞く参加者



アオモリトドマツ（オオシラビン）の球果

■仁別森林博物館で「山の日」記念森林体験学習

「山の日」を記念して、8月11日に仁別森林博物館で仁別森林博物館ボランティア案内会（以下「案内会」）の協力を得て森林体験学習を実施しました。

森林体験学習の内容は、来館者の方が案内会と一緒に博物館周辺にある樹木見本園から葉を採集し、ラミネートを使用した葉の標本作製の体験、館内では木の香りや重さの違い、松ぼっくりの話やカエデの種子の飛び方等について、触れたり、嗅いでみたり、考えたりと、木の持つ特性を感じていただけるような学習を行いました。

イベント開催日は夏休み中であったことから、家族連れや来館者が多く、家族と一緒に体験しながら森林を学んで頂くことができ、作製した葉の標本は「山の日」来館の記念にもなりました。

また、天気も良く博物館の玄関前に設置した望遠鏡で太平山の頂上を眺めることも出来ました。来館者からは太平山の頂上の鳥居もはっきり見ることができたことから、その景色に大変満足されていました。



参加者自らが採集した葉を使った標本作成



木の重さや香りの違いを体感



スギの間伐材を使った積み木

今年「山の日」制定1年目ということもあり、東北森林管理局では例年以上に積極的なPRに取り組みました。今後も国民の皆様へ「山の日」の林野庁のスローガンである「感じよう、山の恵み、森の恵み」を実感していただけるよう取組内容をさらに充実させ、「山の恩恵」のPRに取り組みますので、奮ってご参加いただき「山の恩恵」を体感していただきたいと思います。